

まさには

「恵みの上にさらに恵みを」

「私たちは皆、この方の満ち溢れる豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを与えられた。」

(ヨハネによる福音書 第1章16節・新約聖書160頁)

はじめに

先週はクリスマスを祝い、主イエスが自分の中に「宿ってくださった」との奇跡を知ることができました。本日は救いが私の内に宿った時、どのようになっていくのかを確認し、新しい年を期待する思いを持たせていただきます。

恵みとは何か

日本で最初にサンドイッチを売り出したのはヤマザキパンだと聞いています。ハンバーガーなどには何段も重ねて、いろいろな食材を挟みこんでいるものもありますが、ここでは恵みの上にさらに恵みが重なったのだとの表現が使われています。それだけでも非常に特別感がありますが、最初の恵みと重ねられた恵みは同じなのでしょうか。

まず聖書で言う「恵み」とは何でしょうか。ヨハネが使っているギリシア語では、本来、受け取るべき資格がない、ふさわしくない者であるのに、与えられたプレゼントを意味する語があてられていて、ヘブライ語の「憐れみ」との意味が踏襲されています。

つまり、私たちはその神からの恵みが一度だけではなく、二度も注がれているのだと言うことです。

モーセの恵み

その恵みの内容は違うのでしょうか。ヒントは17節にあります。「律法はモーセを通して与えられ、恵みと真理はイエス・キリストを通して現れた」です。ここで、最初の恵みがモーセを通して与えられた律法、さらに与えられたの

が主イエスの救いであることがわかります。

簡単に申し上げると、最初のモーセの恵みとは、神の選びです。ヨハネは「私が神を選んだのではなく、神が私たちを選んでくださった」(15:16)だと言っています。私はふさわしいから神に選ばれ、そしてその選ばれたことで正しく生きる道を知ったのでしょうか。守られ、憐れみを受けるようになったのでしょうか。違います。「恵み」です。ただただ、神の一方的な私たちへの憐れみによるものです。

主イエスの恵み

さらに与えられたのは、主イエスの救いです。神の民たちは神を知りながらも神に背き続けました。モーセに率いられた民たちの姿を見ても分かります。その罪深い民たちに対して、究極の救いを実現すべく現れたのが主イエスです。主は私たちのこの罪深さ、神に敵対する態度にも関わらず、憐れみを示してくださいました。まさにそれは、自分の態度をみたら受け取るべき資格がない、ふさわしくないのです。しかし、神はそれを度外視して、その憐れみのゆえに私たちが救うべく、自ら十字架にかかり、贖いを成し遂げてくださいました。

15章にあるように、選ばれただけではなく、その実が結ばれ、残っていくようにと恵みを上書きしてくださったのです。今、私たちはこの重ねられていく恵みのうちに生かされ続けているのです。

【礼拝説教はスマホでも視聴できます】
右記のQRコードを読み取ってアクセスしてください。



今週の祈り

「私たちは皆、この方の満ち溢れる豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを与えられた。律法はモーセを通して与えられ、恵みと真理はイエス・キリストを通して現れたからである。」(ヨハネによる福音書 1:16 ~ 17)

「あなたがたが私を選んだのではない。私があなたがたを選んだ。あなたがたが行って実を結び、その実が残るようにと、また、私の名によって願うなら、父が何でも与えてくださるようにと、私があなたがたを任命したのである。」(ヨハネによる福音書 15:16)



神さま、あなたは私を選んでくださいました。私は選ばれる資格などありません。逆に、神さまに逆らい、背を向けることもありますし、従うこともできないのに、それでもあわれんでくださったのです。それだけではなく、私のそのような罪のために、罪に沈むことがないように、滅びることがないようにと、十字架にかかり、私の罪の身代わりとして十字架で死んでくださいました。私の人生が実を結ぶためです。私をそれほどまでに愛してくださった、そのことをもっとよくわからせてください。御名によってお祈りいたします。アーメン。

深読みにチャレンジ!

箴言 (86) 第4章14節

*三つの違う訳を読み比べてみましょう。

◎協会共同訳 「悪しき者の道筋を進むな。邪悪な者の道を歩むな。」

◎口語訳 「よこしまな者の道に、はいってはいらない、悪しき者の道を歩んではならない。」

◎新改訳 「悪者どもの道に入るな。悪人たちの道を歩むな。」

「道筋」

将棋などの勝負事で、このまま進んでいったら勝ちにつながるであろう過程が明らかになってきた時に、「勝ち筋が見えてきた」との言い方をすることがあります。

ここで使われているヘブライ語の「道筋」ははっきりした「道」ではなく、小径のように、舗装されてもおらず、なにか、人が歩いていた形跡はあるような、といった「けもの道」に近いものから、京都にある「哲学の道」のような川沿いの散歩道程度の道を指しています。ヨブ記に「隊商はその道を誤り、不毛の地に入り込んで滅びる」(6:18)とあるのですが、ここで「道」と訳されている語が、ここで「道筋」と訳されている言葉です。

山での遭難は、登山道だと思ってあまり注意もせずに進んだら、違う道筋だった、というケースが多いようです。同じように、悪しき者の道

【神からの知恵によって生きる】

箴言はソロモンが語った知恵の言葉を中心に構成されています。31章から構成されていますが、あたかも短編を読んでいるかのように、種々雑多な知恵の言葉が連なっています。ソロモンが思いつくままに語った言葉を、そのまま筆記したのではないかと思えるほどです。

この書このような性格上、まとめて解説するのが難しいため、この欄で、一つ一つの言葉をじっくり味わいたいと思います。箴言から得る知恵によって、深みのある生き方を学び、よりよい人間関係を築かせていただきたいと思います。

- 1 父から子へ・受け継がれるべき知恵 (1:1 ~ 9:18)
- 2 生活の処方箋・知っておくべき知恵 (10:1 ~ 22:16)
- 3 先人からの知恵 (22:17 ~ 31:31)
 - a 知恵ある人の言葉 (22:17 ~ 24:34)
 - b ソロモンの言葉 (25:1 ~ 29:27)
 - c アゲルの言葉 (30:1 ~ 33)
 - d レムエルの言葉 (31:1 ~ 31)

は何かうさんくささを感じるんだけれども、また良くない道かもしれないと思うんだけれども、誘い込まれてしまった、というような巧妙さが潜んでいます。

父は子に対し、危なっかしいと思ったら、その道はやめて、うかつに入り込まない方が良いと説いています。この節の「邪悪な者の道」の「道」は、誰にも分かるようなはっきりした「道」、また「手段」といった意味まで含まれていますので、「道」は気付きやすいけれど、小さい小径も気をつけろよと言っているのです。

聖書日課

毎朝、決められた時間に聖書を読み、お祈りをするのはクリスチャンの生命線です。この聖書日課を使って心の糧を欠かさないようにしましょう。そのために最低でも15分間を神との交わりのために聖別してください。

朝にどうしても時間のとれない方は、昼休みでも就寝前でもかまいません。ぜひ、実行してください。

【祈りの時の持ち方(例)】

- ①まず黙想し、次に、自分の心を神に向けるために賛美する。賛美曲を歌えない場合は、歌詞を味わう。
- ②御言葉を読み、自分へのメッセージが何かをさぐる。例えば、神の恵み、告白すべき罪、従うべき命令、ならうべき模範など。
- ③自分が神のメッセージにどうこたえるのかを祈る。感謝や信頼の表明、悔い改め、服従、献身など。
- ④自分の祈りだけでなく、できるだけ「祈祷課題」も祈る。

【月曜日】 ◆今週のすべての集会在祝福され、救いにつながるように祈りましょう。

歴代誌下第3章1節「ソロモンは、エルサレムのモリヤ山で、主の神殿の建設を始めた。そこは、」◆ダビデがサタンの誘惑に負け、自分の力を誇示しようとしたことでわざわざを招いたのだが(歴代上21)、その悔い改めた時に御使いが立った場所、それがこの場所、「オルナンの打ち場」である。ダビデはこの場所を神殿の地と定めた。私たちは神の前に真実であり得るだろうか。悔い改めの毎日ではないか?だが神はそのような私たちを見捨てず、祈りに答えてくださる。だからダビデは、その体験の場所に神殿を建てようとしたのだ。

●賛美 / 477 ●祈祷課題

◆昨日、礼拝に集えなかった人が恵みからもれないように。
◆この教会も世界宣教の一拠点であることを自覚し、重荷を持って祈れるように。特に共産圏、イスラム圏伝道が進むように。迫害にある宣教師のために。現地語聖書の翻訳が進むように。異端からの救出が進むように。台湾活水泉の活動のために。

【火曜日】 ◆教会のビジョンのため、将来の働きが祝福されるように祈りましょう。

歴代誌下第4章16節「フラム・アビがソロモン王のために作った主の神殿のこれらの祭具」◆フラム・アビを口語訳は「達人ヒラム」と訳している。フラムがいなければ、神殿は建てられなかった。隣国ティルスは木や石を切り出して輸出、イスラエルから農作物を手に入れていた。この貿易を通してダビデと親しくなった経緯もあり、ティルス王は好意で多くの職人を派遣した。その一人が国家を代表する名工、達人フラムだ。半強制的な徴用であっても、その技をもって神に献げることが惜しまなかった。自分の賜物を神に献げることには力を尽くしたい。

●賛美 / 478 ●祈祷課題

◆日本福音同盟、日本福音連盟、聖化交友会、キリスト教各出版社、EHC、ケズィック、太平洋放送協会、F E B C、キリスト者学生会、日本国際飢餓対策機構、ワールド・ビジョン、いのちの水計画、総動員伝道、Hi-b.a、日本国際ギデオン協会(聖書配布)、新生宣教団等の働きとスタッフのため。

【水曜日】 ◆宣教福祉事業が祝福されるように祈りましょう。

歴代誌下第5章14節「その雲のため、祭司たちは奉仕を続けることができなかった。主の栄光が神殿に満ちたからである。」◆荒れ野の旅の際、「雲の柱」によって荒れ野を導いてくださったように、自然発生する雲とは違い、神の臨在を表現する際に用いられたのが「雲」である。すべてがおおわれると、人間のわざはできなくなる。ただ神が共にいるとの臨在感にひとりながら、この天地を造り、治め、私たちのすべてを治めてくださる主を思う。それが主の宮、礼拝において大切な要素のひとつでもある。

●賛美 / 479 ●祈祷課題

◆新会堂が与えられるように祈りましょう。①バス通りに面した場所に良い土地が与えられるように②十分な資金が与えられるように③早期に建てられるように
◆宗教法人を取得できるように
◆伝道の拠点が祝福され、用いられるように。(まきば、小山宮下事務所、向陽町)

【木曜日】 ◆弱っている方々、病にある方々のために祈りましょう。

歴代誌下第6章33節「その外国人があなたに叫び求めることは何でもかなえてください。そうすれば、」◆イスラエルの民たちは外国人を「契約外の民」と呼び、神が祝福されない人々であると考えていた。だがここでソロモンは、できあがったこの宮に、外国人も含め、すべての民が礼拝することができるようにと祈っている。当時としては驚くべき発言で、しかし、神の御心にそった祈りだった。これはおそらく、彼が外国の女性を愛していたことにより、壁がとりはらわれていたからかも知れない。いずれにせよ、神は罪をもきよめ、用いる方だ。

●賛美 / 480 ●祈禱課題
◆教会学校の成長と救い、青年の結婚、教会員の信仰の成長と家族の救いのため。
◆教会ビジョンのため（社会宣教事業、伝道所の開設、保養施設建設、会堂建築、納骨堂、宗教法人格取得、学生寮、高齢者住宅）、教会員から伝道者や献身者が与えられるよう、教会会計の祝福

【金曜日】 ◆礼拝出席平均が50名以上となり、受洗者が年間3名以上与えられるように祈りましょう。

歴代誌下第7章5節「ソロモン王は牛二万二千頭、羊十二万匹を献げた。こうして、王とすべての民は、共に神殿を奉献した。」◆焼き尽くすいけにえは、神の前に動物の血を流し、かつ全焼にするいけにえのささげ方なのだが、百、二百でも多いのに、牛が二万二千、羊が十二万という数は途方もない規模だった。なぜこのような犠牲を献げたのか。それだけ人間の罪が大きく、神の宮としてきよめるために必要だと思ったからだ。神殿前にあふれた血は町に流れ下っていったはずだ。主イエスの十字架は、それ以上の代価であったことを理解したい。

●賛美 / 481 ●祈禱課題
◆この教会に聖霊の著しい働きがもたらされ、リバイバルが起こるよう。常に新来会者が与えられ、求道者、受洗希望者がもたらされて、教勢が祝福されるように。
◆土屋牧師、淳子師（牧師一家）、思乃扶師、石出師の働きのために。
◆老齢の方、病の中にある方々のいやしのために。

【土曜日】 ◆聖日に備え、健康が保たれ、出席しやすい天候が与えられるように祈りましょう。

歴代誌下第8章11節「ソロモンは、ファラオの娘をダビデの町から、彼女のために建てた宮殿に移らせた。『私の妻はイスラエルの王ダビデの宮殿に住むべきではない。そこは主の箱が納められた聖なる所だ』と考えたからである。」◆20年かけた大プロジェクトは終了する。神殿は7年、その後13年かけて王宮を作った。ソロモンははっきりと神殿は聖別すべきであると宣言しているのだが、結局、その姿勢は崩れた。自分は大丈夫だと思っても、少しの妥協が大きな罪を生む。そもそもエジプトから妻を迎え入れたことが間違いだった。そこにわながある。

●賛美 / 482 ●祈禱課題
◆子どもを含め、すべての人が礼拝を守れるように。あらゆる集会が祝福され、参加者が御言葉によって取り扱われるように。奉仕者が恵まれてご用にあたれるように。
◆ホームページが用いられるように。また礼拝動画が用いられるように。教会から出している週報や印刷物が用いられるように。

【日曜日】 ◆新来会者が起こされるように祈りましょう。

歴代誌下第9章6節「私は、ここに来て、この目で実際に見るまでは、そのことを信じてはいませんでした。しかし、私にはその半分も知らされていなかったのです。」◆シエバは現在のイエメン。2千kmも離れた場所にある。同じ距離を東に行けばインド付近まで到達してしまうほどだ。この時代にそこまでソロモンの存在が知られていたということであり、またそれ以上のものであったと女王が言っているように、驚くような祝福を得ていたということである。私たちは神の祝福にあずかっている。それはこの周辺で終わるような小さいものではない。

●賛美 / 483 ●祈禱課題
◆この教会に連なるすべての方々が聖日礼拝を厳守できるように。聖書通読を続けられるように。御言葉を味わえるように。祈りに励めるように。ささげる恵みにあずかれるように。積極的に神さまから受けた恵みを語れるように。
◆受験生、就職活動者、試練にある者のために。



おやこでせいしよ

●きょうのせいしよ

【マタイによるふくいんしよ 2:13~23】

「エジプトに のがれる」

(イザヤしよ 46:10)

ひがしのくからきた はかせたちは ユダヤまで きましたが、そのときに まず エルサレムの えらいひとたちに あいさつをしました。そのときに、「ユダヤじんの おうとして うまれたかたは どこにおられますか」ときいていました。そのことを けらいから きいた ユダヤのおうヘロデは おどろきました。なぜなら、じぶんのほかに おうとなろうとしているものがあるのだと 思ったからでした。ヘロデは じぶんが おうさまをつづきたいとおもっていたので、その おうとして うまれたものを ころそうとおもいました。

そこで、ヘロデは はかせたちを よんで、はかせたちに そのこを みつけたならば、じぶんにそのことを しらせてほしいとことづけました。

はかせたちは イエスさまとあうことができ

たのですが、ゆめで「ヘロデのところにもどってはいけない」とおつけがあったので、そのまま じぶんのくにかえっていきました。

ヘロデは はかせたちが じぶんのところによらないで かえってしまったことを とても

おこり、ベツレヘムにすんでいる にさいいかのおとこのこを みんな ころすようと けらいに めいれいしました。なんと おそろしいことでしょうか。

てんしが はかせたちに あらわれたとき、ヨセフにも ゆめで おつけがありました。「すぐに したくをして、エジプトに にげなさい。ヘロデが このこをさがして ころそうとしている」。ヨセフは あわてて マリアと イエスさまをつれて エジプトに むかいました。

そのあと、ベツレヘムで かなしいできごとがおこるのですが、このことはもきゅうやくせいしよの じだいに よげんされていました。このことも かみさまが ごぞんじで、わたしたちのうける すくいの けいかくのなかに ふくまれていたことでした。

●かんがえてみよう

☆ヘロデは はかせたちに どのような おねがいをしましたか。(マタイ 2:8)

☆はかせたちは なぜ ヘロデにあわずに かえってまったのですか。(マタイ 2:12)

☆ヨセフは なぜ かぞくで エジプトに むかったのですか。(マタイ 2:13)



なみむ聖書

もじ独

あいているマスに、右の9文字のどれかを入れます。タテ列（9列あります）、ヨコ列（9列あります）、太線で囲まれた3×3のブロック（それぞれ9マスあるブロックが9つあります）のどれにも9文字のいずれかがはいりませんが、文字が重なってはいけません。数独と同じ要領です。

えじぶとへしりぞく

く			へ	と	ぞ	り		え
り	と	ぞ	じ		し	ぶ	く	へ
へ	え	じ				と	ぞ	
ぶ	し					ぞ	と	じ
じ	り						し	く
ぞ	へ						り	ぶ
え	じ	へ		ぞ		し	ぶ	
		り	え	じ	ぶ	く		と
	く	ぶ	し	り		じ	え	ぞ

ことばあそび

今週の聖書箇所の中に出てくる言葉です。それぞれを並び替えると意味が通る言葉になります。答えてください。

- ① とりのこずひら
- ② このたわし
- ③ しよんげや
- ④ しゅへうん

まちがいさがし

3つあるよ!さがしてね





牧師の 聖書 ななめ読み

「新年」

新年おめでとうございます。今年もよろしくお願
いいたします。

子どもの頃はもっと年末はせわしなく、そして年
を越す時の緊張感というか、ドキドキ感があつたよ
うに思います。子どもだったからなのかわかりませ
んが、今はそれが全くと言っていいほどありません。

私はコンビニの出現から、そういった季節感が薄
まってきたのではと考えています。年末のせわしな
さがなくなった一つの要因は、年末年始に店があい

ているので、買いだめをしなくてもよくなったから
です。考えてみると、年末年始の風物詩といえる
年賀状も SNS に変わっていますし、おせち料理に
は目を向けなくなりましたから用意する必要もなく、
それぞれがゲームに熱中したり、出かけてしまうの
で、家族で福笑いなどをして楽しむこともありませ
ん。こたつに入ってみかんなんて、エアコンがある
のにそんな邪魔になるものわざわざ置きません。新
年のアイテムがひとつひとつなくなっていき、正月
らしさが消えかけているのです。

その影響か、多くの人たちは、1月1日は12月
31日の翌日でしかなく、いつもの朝と変わりなく向
かえますが、私たちは「恵みを年の冠」(詩編 65)
として新年を大切な日として迎えたいですね。

聖書ふれあい街歩き

●シオン

今まで取り上げてきませんでした。念頭で
すので、それにふさわしいと思い、シオンにつ
いて紹介しようと思います。

ご存じでしょうが、シオンは町の名前と言う
よりも、記念すべき場所を指す呼称でした。

イスラエルの統一を果たしたダビデは、エブ
ス人からエルサレム南東部の丘である要害を奪
います。ここがその後、「ダビデの町」と呼ば
れるようになります(サムエル下 5:7)。神殿が
築かれた丘(モリヤの山)の南です。ソロモン
が神殿を建てると、シオンまたはシオン山と呼
ばれ、ヘブライ語の意味は不明ですが、主が住
まわれる場所と同義語になり、エルサレム全体
を指すようになります。

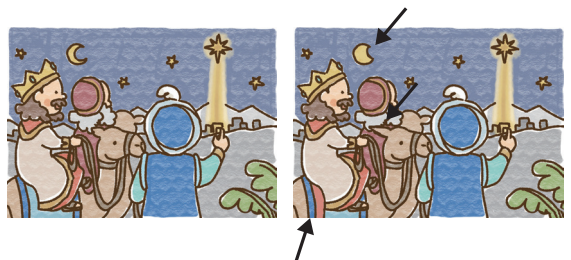
詩編や預言書に多く出てくるのですが、シオ
ンは、それ以降、エルサレムの神殿と同義語の
ように用いられ、神の臨在であつたり、神の守
りなどの象徴として、神の救いが現れる、希望
の場所となっていくのです。

新約聖書では、そのシオンが「生ける神の都、
天のエルサレム」(ヘブライ 12:22)、つまり、
私たちの最終的な救いであり、招かれる場所、
新しい天と新しい地にある新しい神の都を指し
示すようになっていきます。

ななめ聖書 先週のこたえ

て	み	ぶ	ほ	ろ	を	し	こ	よ
こ	を	よ	み	て	し	ろ	ぶ	ほ
ろ	ほ	し	こ	ぶ	よ	を	て	み
み	こ	ほ	て	よ	ろ	ぶ	を	し
し	て	ろ	ぶ	を	み	ほ	よ	こ
よ	ぶ	を	し	こ	ほ	て	み	ろ
ほ	よ	み	を	し	て	こ	ろ	ぶ
ぶ	し	て	ろ	み	こ	よ	ほ	を
を	ろ	こ	よ	ほ	ぶ	み	し	て

- ① たからのはこ
- ② べつれへむ
- ③ もつやく
- ④ とうほう



ティルスでの滞在

やがてキプロス島が見えてきたが、それを左にして通り過ぎ、シリア州に向かって船旅を続けてティルスに入港した。ここで船は、積み荷を降ろすことになっていたのである。

私たちは弟子たちを探し出して、そこに七日間滞在した。彼らは霊に促され、エルサレムに行かないようにと、パウロに繰り返して言った。

しかし、滞在期間が過ぎたとき、私たちはそこをたって旅を続けることにした。彼らは皆、妻や子どもを連れて、町外れまで見送りに来てくれた。そして、共に浜辺でひざまずいて祈り、互いに別れの挨拶を交わし、私たちは船に乗り込み、彼らは自分の家に戻って行った。

私たちは、ティルスから航海を続けてプトレマイスに着き、きょうだいたちに挨拶して、彼らのところに一日滞在した。」(使徒言行録21:3~7)



【海路を選ぶ】

無事、フェニキアのティルスに到着したパウロでしたが、どういうわけかすぐに移動しませんでした。「弟子たちを探し」という行動からわかるように、最初からティルスに留まることを考えていたようです。

最も考えられることは、「貨物の積み下ろしをする7日間」であったということです。

「滞在期間が過ぎたとき」(5)とあります。このような言い方から考えると、パウロの都合ではなく、船の停泊時間が定まっていたからではないかと推測できます。つまり、フェニキアに行く貨物船が母港と思われるティルスに着いたけれども、そこで新たな輸出品を乗せて、ユダヤへと向かうことになっていた、おそらく、パウロたちは乗船した船内で、この貨物船がティルスに寄港した後すぐにプトレマイス、そしてカイサリアに向かうことを聞いたのかもしれない。当時、荷物の積み下ろしには1週間程度かかっていたようです。特にティルスから乗せる輸出品はレバノン杉ですので、すぐには出港できません。陸路ということも考えられなくはありませんが、7日ほどならば海路の方が多少早く着きますし、その間に「弟子たちを探し出して」信徒たちを励ますと共に、さまざまな情報を得ることができますので、7日待つことを選択したのでしょう。

信徒がそこにいるのだから、できる限り励まそう、というパウロらしい姿勢も見えます。

【霊に促され】

パウロは聖霊の導くままに旅を続けていました。「御言葉を語ることを聖霊から禁じられた」(16:6)ので通り過ぎたり、「イエスの霊がそれを

赦さなかった」(16:7)のでコースを変えたりもしています。

ところが、ここで、ティルスの信徒たちが「霊に促され、エルサレムに行かないように」とパウロに言っているのですが、パウロは「霊に促されてエルサレムに行きます」(20:22)と言って、ティルスまで来ているわけです。そして、それを優先して、エルサレムに向かいます。そうすると、このティルスの信徒たちの「霊の促し」は何だったのでしょうか。一見矛盾を感じます。

この部分の原語を見てみると、パウロは「霊に拘束されて」と換言できます。つまり自分の意思ではありません。一方、ティルスの信徒たちの場合は「霊を通して」で、祈っている中で、自分が示されたような表現です。微妙なのですが、信徒たちは、自分たちの情報もあって、人間的な判断も加味されていたのではないかと思います。

たとえば、私たちも自分の持っている課題についてどうしたらよいのか、判断に困ることがあります。しかし、何もしないわけにはいきませんので、今まで得てきた体験をもとに、祈りつつ行動に移します。これは献身を促す時のような「聖霊に拘束される」、自分の意思を超えた判断ではなく、自分の信仰によって「これが神の御心ではないかと思う」と感じて取る行動です。決して神に背くような行為ではなく、神の御心がどこにあるか分からないが、これが御旨ではないかとの、御旨に沿っていこうとする姿勢ですから、間違っはしません。つまり、ティルスの信徒も、パウロを思い、エルサレムの状況を考え、祈った上で語ったので、「霊に促され」と表現したのです。ですから、矛盾ではないのです。

キリスト教まるわかり Q&A

◆何もわからないのですが。

必要なものはお貸しし、一つずつお教えいたします。また信仰の強要はいたしません。

◆礼拝とは何ですか。

私たちの悩みは神から離れていることに原因があります。礼拝で神を賛美し、祈り、御言葉を聞くことにより、人間のあるべき姿を取り戻していく、それが礼拝です。

◆献金とは何ですか。

神への献身を表すもので、お布施や聴講料、会費ではありません。本人の意志に任されておられ、あくまでも自由です。趣旨のわからない方はなさらなくても問題ありません。

◆聖餐式とは何ですか。

信仰告白をし、洗礼(バプテスマ)を受けておられる方のみになりますが、主イエスと共に生きていることを確認する儀式で、聖別された

パンとぶどう液をいただきます。

◆信者になるにはどうしたらいいですか。

自分の意志で主イエスの福音を信じ、洗礼を受けることにより教会員(信者)と呼ばれます。

◆キリスト教会は様々な教派があります。

大きく分けてカトリック教会とプロテスタント教会があります。プロテスタント教会は、設立された時代や地域、歴史的な背景によって成立が違うため、多くの教派がありますが、憎み合っているのではなく、互いの特色を認め合い、助け合っています。

◆にせのキリスト教会がありますか。

キリスト教の枠組みからずれている教えについて、私たちは異端と呼んでいます。代表的な団体には「エホバの証人」「モルモン教会」「世界平和統一家庭連合」などがあります。特に韓国系キリスト教活動にはお気をつけください。お困りの方は牧師までご相談ください。

2026年教会暦・年間行事

(#はその年によって変動します)

「教会暦」はキリストの生涯をたどりながら1年を過ごすために作られました。当教会では教会暦に、継承されてきた伝統的記念日を加え、守っています。

顕現節(1/6～#2/17)

降誕日(12/25)から12日後に東方の博士がキリストを礼拝した顕現日(1/6)から始まります。降誕されたキリストが世界の救い主であることを覚えて過ごします。顕現節の最終主日は受難の整えをされた変貌のできごとを覚え、変容主日(#2/15)として守ります。

四旬節(#2/18～#3/28)

前年に使用したしゅろの枝を灰にしてかぶり悔い改めを表した儀式(この教会では行いません)、灰の水曜日(#2/18)から始まります。レントとも呼び、主日を除いた復活日前日までの40日間、キリストの受難を覚えて過ごします。

四旬節に続く受難週(#3/29～4/4)は、主イエスの最後の1週間を覚える週で、エルサレム入城に際し、しゅろの枝を用いて歓迎したしゅろの主日(#3/29)から始まり、洗足と主の晩餐が行われた木曜日(#4/2)、十字架にかかられた受難日(#4/3)と過ごしていきます。

復活節(#4/5～#5/23)

キリストが死にかけて復活されたことを祝うイースター(復活日・#4/5)から始まります。春分の日の後の最初の満月の次に来る日曜日と定められているので、祝日が毎年変動します。40日後のキリストの昇天(#5/14)を迎えたのち、復活節の最終主日(昇天主日 #5/17)となります。

聖霊降臨節(#5/24～#11/28)

復活日から50日目、聖霊が使徒たちに降ったことを記念する聖霊降臨日(ペンテコステ・#5/24)から

始まり、三位一体主日(#5/31)では父、御子、御霊の働きを告白し、過ごします。最も長い節期となります。

待降節(#11/29～12/24)

救い主キリストの誕生を祝う備えをしながら、待ち望むアドベント(待降節)は、11月30日に一番近い主日から始まります。降誕を祝うクリスマスは12月25日ですが、クリスマス礼拝(#12/20)は、25日以前の日曜日を選んでをささげています。

降誕節(12/25～1/5)

イエス・キリストの誕生を祝う日(12/25)から始まり、顕現日前日までの期間を指します。

【記念日】

母の日(5/10・5月第二)
ウェスレー回心記念日(5/24・1738年)
花の日(子どもの日・6/14・6月第二)
父の日(6/21・6月第三)
ホーリネス弾圧記念日(6/26・1942年)
宗教改革記念日(10/31・1517年)
収穫感謝日(11/22・11月第四)

【当教会行事】

新年元旦礼拝(1月1日・木)
成人祝福礼拝(#1/11・1月第二)
聖書愛読週間(#3/22～28)
みふみの日(3月23日)
教会創立記念礼拝(3月最終主日/創立記念日3/29)
最後の晩餐集会(#4月2日夕)
召天者記念合同礼拝(#6/14・6月第二)
弾圧記念礼拝(#6月28日・26日前後の主日)
石出忠師記念礼拝(#7月5日・7月第一)
敬老祝福礼拝(#9/13・9月第三)
子ども祝福礼拝(#11/1・11月第一)
クリスマスイブ礼拝(12月24日夕・木)

教会紹介

●歴史

私たちの教会は、ジョン・ウェスレーを源流とするメソジスト(青山学院、東北学院など)の信仰を継承しており、メソジストの教職であった中田重治が1901年に創立したホーリネス教会の信仰を受け継いでいます。2022年3月27日に創立いたしました。

●教義

旧新約聖書66巻を誤りない神の言と信じ、唯一の正典として信仰生活の規範にしています。また三位一体の神を信じ、イエス・キリストによる以外に救いがないことを告白しています。特色は、下記に紹介する四重の福音を強調していることです。

【四重の福音】

四重の福音は、長老教会の牧師A. B. シンプソンが提唱したものを、ホーリネス教会の創設者中田重治が自らの信仰に基づいた理解を加え、福音宣教の際に掲げた教えです。

人間の幸せは神と共に生きることで実現するのですが、神を認めず生きているため、むなしく日を過ごしているのが現実です。しかし、イエス・キリストが十字架によって神と人との絆を回復してくださったのです。これが福音です。この福音を信じることで、人間は本来もっていた真の幸いを覚えながら、充実した人生を送れるのです。

中田は、聖書に書かれてあるこの福音をわかりやすく語るべく、前述の提唱にある新生、聖化、神癒(しんゆ)、再臨(さいりん)の4項目に基づいて、以下のようにまとめました。

◆**新生** キリストの十字架と復活を信じ、新しく生まれ変わる。これにより、天に住まう者のように、日々喜びが与えられる。(コリントの信徒への手紙 2:5:17 など)

◆**聖化** 神に属する者であるとの自覚が与えられたことで、自己中心に生きていた心が砕かれ、同時に神中心の生活を求め始め、神のきよさに近づくこと。(ガラテヤの信徒への手紙 2:19 ~ 20 など)

◆**神癒(しんゆ)** 肉体を持っているがゆえに弱る私たちが、神のあわれみにより、病い、そして死の恐怖にも打ち勝つ力が与えられ、苦しみから解放されること。(出エジプト記 15:26 など)

◆**再臨(栄化)** キリストが再び地上に来られること。その時、死んだ聖徒たちは復活し、生ける信徒は死を経験せずに天に挙げられる。(コリントの信徒への手紙 1:5:51 など)

教会の信条

さがみはら 相模原ホーリネス教会は以下を信条として掲げています。

わたし 私たちはイエス・キリストを救い主として信じています。

主イエスは、「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」と宣言されてから約3年間、人々にその教えとみわざを通して神の国の恵みを明らかにされ、そののち、私たちの罪を負って、十字架にかかれ、あがないを成し遂げ、神の国にはいる救いの道を開かれました。

この主イエスの救いへの招きに応じて神の国に属して生きる者となった私たちは、聖書が終末と示しているこの時代に、使命を全うすべく、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と信仰告白をした者たちと共に、神の国の鍵を与えられた教会の一員とされたことを覚えながら、聖霊の助けによって以下のことを宣証しつつ歩みます。

- ①キリストによる完全な救い
- ②真心からささげる礼拝
- ③キリストをかしらとした教会の交わり
- ④神の憐れみによるいやしと慰め
- ⑤信仰生活がもたらす祝福
- ⑥世界にも目を向けたとりなしの祈り
- ⑦神の愛に基づく社会への貢献

MEMO

単立 相模原ホーリネス教会

創立 2022年3月27日

主任牧師 土屋 和彦 牧師 石出 佳代子 牧師 土屋 淳子

252-0205 相模原市中央区小山 3-31-3

TEL&FAX 042(772)8910 e-mail church@bethels.info

ホームページ <http://www.bethels.info/>

